

# 水を武器として：歴史的禁止からシオニストの実践まで

水、最も基本的な生命の必需品は、歴史を通じて武器化されてきた - 民間人を飢えさせ、病気をさせ、移住させ、破壊するために使用されてきた。戦争と反省の数世紀を通じて発展した国際法は、水源の毒殺、破壊、またはアクセス拒否を明示的に禁止している。しかし、現代において、イスラエルという国家が、パレスチナの土地の植民地化と占領において、これらの規範を歴史的かつ体系的に繰り返し違反していることがわかる。1948年の生物戦争からヨルダン川西岸でのインフラ破壊工作、ガザでの包囲戦術まで、水を武器として使用することは、シオニスト政策の一貫した特徴である。

このエッセイは、水の武器化の歴史、その国際法による禁止、そしてイスラエルの戦術が直接的な毒殺から構造的支配へと進化した過程をたどる。また、戦後のヨーロッパでのユダヤ人の初期の復讐計画の失敗が、暴力の方向転換を触媒し、パレスチナ人の生活に対する長い継続的な攻撃につながった方法についても探求する。

## 水の武器化：歴史的概要

水源の意図的な毒殺は、長い間、戦争の残虐行為として非難されてきた。古代や中世の例は数多く、包囲軍が井戸を死体で汚染したり、自然毒素を使用したりした。戦争法が進化するにつれて、そのような行為は法的に、また道徳的に許されないものとなった。

- **ハーグ条約IV（1907年）** は、毒または毒兵器の使用を禁止している（第23条(a)）。
- **ジュネーヴ議定書（1925年）** は、化学兵器および生物兵器（水中のものを含む）を禁止している。
- **生物兵器条約（1972年）** および**化学兵器条約（1993年）** は、これらの禁止を再確認している。
- **国際刑事裁判所ローマ規程（1998年）** は、毒水の使用を戦争犯罪として定義している（第8条(2)(b)(xvii)）。

20世紀までに、このような行為は国際慣習法となり、すべての国家と行為者に拘束力を持つようになった。しかし、パレスチナにおけるシオニスト国家の設立中に、これらの規範はすぐに破られた。

## 「パンを投げなさい」作戦とシオニストの水の毒殺（1948年）

1948年、ナクバ（75万人以上のパレスチナ人の強制移住）の間に、イスラエルの民兵と科学部隊は、パレスチナの民間人に対する意図的な生物戦争作戦を実施した。その最も明確な例の一つは、チフス菌による水供給の汚染であった：

- **アッコ (1948年5月)** : シオニスト部隊は市営水道をチフスで汚染し、集団的な病気をもたらした。赤十字が介入した。これはシオニスト部隊による最初の既知の細菌兵器の使用であり、**ハガナの131部隊**によって調整された。
- **ガザ (1948年6月)** : 同様の計画はエジプト当局によって阻止された。生物剤を運ぶシオニスト工作員は展開前に逮捕された。
- **ビドウ、ベイト・スリク、AIN・カリムなどの村**では、井戸や貯水池が汚染または破壊され、病気や移住を引き起こした。
- **AIN・アル・ザイトウンやガリラヤの複数の村**では、井戸が恒久的に破壊され、しばしば虐殺や集団追放と同時に行われた。

これらの作戦は、当時効力を持っていた**ハーグ規則**の複数の条項に違反し、**ダレット計画**という、より広範な人口減少と抑止戦略に適合していた。

## ドイツの毒殺からパレスチナの毒殺へ：標的の変更と免責の誕生

1945年、**ナカムグループ** - ホロコーストの生存者による復讐を誓ったネットワーク - は、ニュルンベルクやミュンヘンなどのドイツの都市の**水道**を毒殺する計画を立てた。彼らは市営水道システムに潜入し、アクセスマップを取得し、ヒ素を使用して数百万人を殺害するつもりだった。しかし、英國当局が彼らのリーダーを逮捕し、毒が海に投棄されたことで計画は失敗した。

地理的に遠く、政治的に保護されたドイツ人に到達または罰することができなかつたため、グループの怒りは消えなかつた。それは**方向転換**された。はるかにアクセスしやすく、無防備な標的が近くにあった：**パレスチナ人**。これは、ホロコースト中およびその前の年に、多くの場合で**ユダヤ人に避難所を提供**していた同じ人々であり、**エヴィアン会議**（1938年）で示されるように、米国や英國を含むどの西側国家も彼らを受け入れなかつた。

わずか3年後、シオニスト部隊はパレスチナの井戸を毒殺した - ホロコーストへの復讐としてではなく、植民地化と移住の道具として。これを正当化するために、彼らは嘘を構築した：**パレスチナ人、ではなくドイツ人がホロコーストの責任者である**というもの。

この嘘の最も繰り返されたバージョンは、**エルサレムのグランド・ムフティ、ハジ・アミン・アル・フセイニ**がヒトラーと共にホロコーストを「扇動」または共同計画したと主張するものである。この主張は歴史的タイムラインの精査の下で崩壊するが、**イスラエルのプロパガンダの定番**として残っている。今日でも、ハスバラのアカウントやイスラエルの政治家は、パレスチナ支持者を「イスラモナチ」や「パリナチ」と呼んでこの歪曲を繰り返し、ドイツの罪を消し去り、パレスチナ人に対するシオニストの暴力を正当化する物語の逆転を意図している。

## 現代の戦術：入植者の暴力と構造的支配

生物学的攻撃は停止したが、水の武器化はより陰湿な形で続いている - 特にヨルダン川西岸では、イスラエル占領政権が**構造的剥奪**の精巧なシステムを設計している：

- **入植者の破壊行為**：入植者は定期的に共同の貯水槽で沐浴し、灌漑パイプを破壊し、屋上の水タンクを撃ち、泉へのアクセスを阻止する。
- **2025年7月**、入植者は30以上のパレスチナの村に供給される予定だった水を、近くの入植地のプライベートプールを満たすために転用した。
- **貯水槽の破壊**には、井戸に岩、コンクリート、ごみを詰め込んで使用不能にすることが含まれる。

この入植者の暴力は、特に**軍事命令158（1967年）**に根ざした国家政策によって可能になっている。これはパレスチナ人が新しい水インフラ（雨水収集を含む）に対して許可を取得することを要求するが、許可はほとんど与えられない。

## メコロト体制：制度化されたアパルトヘイト

イスラエルの国営水道会社**メコロト**は、以下のようなシステムを監督している：

- 抽出された水の**52%**がイスラエルに供給される。
- **32%**が違法な入植地に供給される。
- 数百万人のパレスチナ人には**わずか16%**しか残らない。

一方、ヨルダン川西岸のパレスチナ人は1日あたり**20～50リットル**しか受け取らず、WHOの**最低基準**である100リットルを大きく下回る。入植地は灌漑された農場やプールを楽しむ。これは不足ではなく、優越である。

エリアCでは、イスラエルによる**山岳帯水層**の過剰抽出により、パレスチナの井戸が枯渇したり塩分を含んだりしている。バルダラやアル・オージャのような場所では、農業が崩壊している。土地そのものが死にかけている。これは**エコサイド**である。

## 空の犯罪化：雨水の密輸

空さえ自由ではない。軍事命令158に基づき、雨水の収集は犯罪化されている。許可なく建設された貯水槽は：

- イスラエル軍によって**破壊**される。
- 「違法なインフラ」として**没収**される。
- 水の供給停止（例えば、2017年にある村は5日間すべての水供給を失った）で**罰せ**られる。

これらの慣行は、**第四ジュネーヴ条約**、**ハーグ規則（1907年）**、および**ICESCR**に基づく**水への人権**に違反している。イスラエル人はパレスチナ人の少なくとも**4倍**の水を消費している。

## ガザ：環境および生物学的戦争としての包囲

ガザでは、水は単なる商品ではなく、**包囲**の武器となっている。2007年以来、イスラエルは重要なインフラを封鎖または爆撃してきた：

- ・淡水化プラントが破壊された。
- ・下水処理施設が標的にされた。
- ・水ポンプ用の燃料が拒否された。

2025年時点で：

- ・ガザの水の97%以上が飲用に適さない。
- ・子どもたちは慢性の水系疾患に苦しんでいる。
- ・2025年3月2日以降、ガザはIPCフェーズ5の飢餓に入り、免疫系が弱っているため、腸炎の軽度なケースさえ致命的になる可能性がある。

やせ衰えたパレスチナの子どもたちの画像がオンラインで拡散されると、イスラエルのハスバラアカウントはそれらを「遺伝性疾患」の犠牲者として却下する。かつてナチスはアンネ・フランクのような犠牲者について同じ主張をし、彼女はガス室ではなく、ベルゲン・ベルゼンでのチフス、水系疾患で死亡した。その響きはぞつとするものだ。

## 結論：水の毒殺、記憶の毒殺

水は常に武器であった。しかし、シオニストのプロジェクトでは、それは教義となり、排除、懲罰、支配の手段となった。1948年から現在まで、井戸は毒殺され、帯水層は略奪され、渴きは犯罪化されてきた。ガザでは、子どもたちがきれいな水の不足で死に、ヨルダン川西岸では、コミュニティ全体が土地を放棄せざるを得なくなっている。

それでも、水が盗まれたり破壊されたりしているにもかかわらず、パレスチナ人は非難されている - 抵抗しただけでなく、他人の犯罪の責任を負わされている。ホロコーストからユダヤ人難民を救う手助けをした人々がそのスケープゴートとなった - 彼らが何をしたかではなく、近くにいたからだ。

水を武器化することは、生命そのものに対する戦争を仕掛けることである。そして、ジェノサイドの責任をその生存者の犠牲者に転嫁することは、真実を毒殺することである。平和があるとすれば、まず正義がなければならない。そして正義は、武器を暴き、犯罪を名付け、物理的かつ道徳的な水をそれが盗まれた人々に返すことから始まる。